

令和 7 年度 砧南中学校自己評価（学校評価）報告及び改善方策

学校教育目標の達成に向け、令和 7 年度は以下の 3 点を指導の重点目標として位置づけました。

- (1) キャリア・未来デザイン教育の実現による「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力等」の育成
- (2) 「自他を認め、感性と創造性を育む教育」の充実
- (3) 「心と身体を大切にし、たくましく未来を切り拓く素地を養う教育」の充実

重点目標を達成するための具体的な取組として学校経営方針に位置付けた内容について、学校関係者評価項目に基づき、自己評価及び改善の方策について、以下のように報告します。

【重点目標（1）】① キャリア・未来デザイン教育の実現による「知識・技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力等」の育成

① 重点目標を達成するための取組として以下を設定する。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、指導と評価の一体化を図り、妥当性・信頼性のある学習評価を実施する。
- ・各教科の「見方・考え方」を働かせる場面を重視した授業により、生徒が「教科等を学ぶ意義」や「学びの深まり」「学んだことによる自己の成長」を実感できる取組を行う。
- ・各教科等の学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」のサイクルを繰り返し、発展させていくことを通して、学習内容や学び方を取得するとともに、共感、協働する学びにより多様な考えを受容し、より深い学びに向かう「せたがや探究的な学び」を推進する。また、高校入試問題を中心として問題実践を行い、実践力の向上を目指す。
- ・生徒が社会的・職業的自立に向けて自己の役割や将来の生き方、働き方について具体的に考え、未来を切り拓いていけるよう、「キャリア・未来デザイン」教育を推進する。
- ・タブレット端末や Qubena 等を中心とした ICT の効果的な活用を通して協働的な学び、探求的な学び、個別最適な学びの充実を図る。

② 重点目標（1）に関連する学校関係者評価の結果

- ・生徒の学習指導に関する全ての項目は、80%以上の肯定的回答となっている。
- ・保護者の学習指導に関する項目は全てにおいて向上し、特に、「本校は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」については 9 ポイント向上した。
- ・先生に関する項目の「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。」の生徒の肯定的回答の割合は 7 ポイント向上した。
- ・学習指導に関する生徒の肯定的回答が最も低いのは、授業において話し合う活動の評価についてである。

③ 自己評価

- ・話し合い活動などの協働的な学びの場面設定に少し欠けた。
- ・ICTの活用は定着している。ロイロノートなどは、各教科で定着している。引き続き、指導のねらいに応じた効果的な教材の提示が課題である。
- ・管理職による年間3回の授業観察においては、学習指導案の略案に必ず「探究的な学びに向けたICTの活用」を位置付けるよう指示し、全教員がICTを活用した授業の充実を図った。
- ・保護者の学習指導に関する項目は全てにおいて60%台とやや低い。保護者の本校の教育活動への理解が課題である。

④ 改善方策

- ・知識・技能の習得、思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力等の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、指導と評価の一体化を図り、適正で信頼される学習評価を実施する。
- ・保護者の学習指導への理解に向けて、学校公開や学校だより等による情報発信を充実させる。
- ・ICT活用のさらなる充実を図るとともに、積極的に授業公開をしていく。

【重点目標（2）】「自他を認め、感性と創造性を育む教育」の充実

① 重点目標を達成するための取組

- ・全ての生徒が自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、権利と義務、自由と責任についての認識を深め、公共心や自立心をもつことができるよう、人権教育を推進する。
- ・あらゆる他者との違いを受け入れ、認め合いながらコミュニケーションを図り、知的好奇心、新しい知識・経験に対する探究心をもち、共に成長していく、「多様な価値観に対して共感する態度」を養う。
- ・家庭・地域の具体的な参加場面をつくるなど、協議会の工夫・改善を行い、道徳授業地区公開講座を充実させることで、家庭や地域と連携した道徳教育を推進する。
- ・生徒の社会的・職業的な自立に向け、自己の役割や将来の生き方、働き方について考えていくことができるよう、地域や外部機関と連携した体験的なキャリア教育を推進する。
- ・近隣高校との積極的な連携（高校説明会・高校出張授業・多様な進路等の高校説明会）を保護者参加型ですすめることで、キャリア教育・進学対策の取り組みを一層推進する。

② 重点目標（2）に関連する学校関係者評価の結果

- ・「学校は、学習以外の道徳教育、人権教育にも力を入れている」について、保護者の肯定的回答の割合は保護者52.4%、地域62.0%であり、昨年度と比較して地域は8ポイント下がっている。
- ・学校行事に関する項目「学校行事は楽しい」「学校行事は達成感がある」について、生徒、保護者の肯定的回答の割合は共に90%以上となっている。
- ・キャリア教育に関する項目「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」についての肯定的回答は、生徒76%、保護者60%であり、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」についての肯定的回答の割合は、生徒78%、保護者60%であり、生徒と保護者ともに大きく向上している。
- ・「キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」についての肯定的割合は、生

徒 65%、保護者 55%であり、ともに向上している。

③ 自己評価

- ・考え、議論する道徳の授業を要として、引き続き充実させていく必要がある。
- ・キャリア教育の推進に向けた、「高校説明会 IN 砧南中」や「進学情報説明会」、不登校の生徒・保護者に向けた「多様な進路等の高校説明会」などの取り組みが実を結んだ。
- ・職場体験を引き続き充実させていく。
- ・キャリア・パスポートの活用について、意義の周知と有効活用を引き続き推進していく。

⑤ 改善方策

- ・道徳教育・人権教育に力を入れ、さらに生徒の心の教育を充実していく。また、道徳授業地区公開講座では「いじめ問題学習会」を充実させ、学校、家庭・地域が一堂に会し、子供たちの心に訴える工夫をしていく。
- ・学校行事において、引き続き生徒の自主的・自治的活などの体験的な活動の場面を増やし、生徒が自己実現できる教育活動の充実を図る。
- ・自己肯定感や、他者理解、協調性や忍耐力等の「非認知能力」の育成に向けて、起業家教育を実施していく。
- ・生徒の社会的・職業的な自立に向け、自己の役割や将来の生き方、働き方について考えていくことができるよう、地域や東京都産業労働局などと連携した体験的なキャリア教育を推進する。
- ・キャリア・パスポートを有効活用し、生徒が将来への夢や希望をもち、その実現に向けて、主体的に未来を切り拓こうとするための指導を充実させるとともに、キャリア・パスポートを家庭に持ち帰らせ、保護者と内容を共有するなどして、キャリア教育について家庭の理解を得る。
- ・地域行事への参加や社会体験活動、ボランティア活動の一層の活性化を図る取り組みを通して、社会性を育み、社会の構成員としての自覚をもつことができるようにする。

【重点目標（3）】「心と身体を大切にし、たくましく未来を切り拓く素地を養う教育」の充実

① 重点目標を達成するための取組

- ・いじめや様々な問題行動、不登校等の未然防止、早期対応、解決に向けた校内体制を整備し、全ての生徒にとって学校が安全・安心で、魅力ある場となるよう「居場所づくり」「絆づくり」の取組を充実させ、組織的に対応する。
- ・個性や能力、発達特性、生徒の状況が個別多様化する中において、一人ひとりに寄り添い、ICTの活用や関係諸機関等との連携による支援体制を確立し、ニーズに応じた支援を行う。
- ・不登校生徒の状況に応じ、学びの多様化推進担当教員を中心にして家庭との連絡を密にし、校内支援会議における検討により、組織的な支援体制を確立する。
- ・体力向上や健やかな身体づくりとともに、自らの心身の健康と食に対する正しい知識を身につける取組を推進する。

② 重点目標（3）に関連する学校関係者評価の結果

- ・生活指導に関する項目「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」については、生徒の肯定的回答の割合は、どの項目も 93%を超えており、生徒が概ね学校での過ごし方やルールについて理解し、行動できていると考えられる。
- ・地域の通学時の交通ルールに関する項目は、肯定的回答の割合が、89%であり、昨年度よりも 12 ポイント向上した。
- ・独自質問の「モラルを守って携帯電話やタブレットなどの I C Tを使用している。」についての肯定的回答の割合は、生徒 92%、保護者 76%と、ともに高い。
- ・「先生たちは、生徒が相談しやすい」の肯定的回答の割合は、保護者 71%となっており、8 ポイント向上した。
- ・「体力の向上や健康な生活」の項目について、生徒の肯定的な回答の割合は 71%、保護者 70%であった。
- ・独自質問の「困ったときに相談できる友人、大人」の項目について、生徒の肯定的回答の割合は、友人 90%、大人 88%と、どちらも高い。

③ 自己評価

- ・「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」などの、生活指導に関する項目に結果から、多くの生徒の規範意識が醸成されていると考えられる。
- ・「モラルを守って携帯電話やタブレットなどの I C Tを使用している。」についての肯定的回答の割合は、生徒、保護者共に高いがトラブルは多くある。I C Tリテラシー教育の充実は今後も必須である。
- ・健康な生活習慣について、概ね肯定的評価が高い。
- ・生徒が困ったときに相談できる友人・大人の項目についての肯定的評価は高い。

④ 改善方策

- ・引き続き、生徒に学校での過ごし方やルールについて、考えて行動するための指導の徹底を図るとともに、通学時の交通ルールの順守について指導していく。
- ・I C Tリテラシー教育を充実させるとともに、家庭と連携して基本的な生活習慣や家庭学習の定着、デジタルシチズンシップの育成を図る。また、生徒がいつでも相談できる人間関係づくりや、安心して相談できる環境づくりに努める。学校教育全体を通じて、情報活用能力の育成とリテラシーに関する教育に引き続き取り組んでいく。
- ・いじめや様々な問題行動、不登校等の未然防止、早期対応、解決に向けた校内体制を整備し、全ての生徒にとって学校が安全・安心で、魅力ある場となるよう「居場所づくり」「絆づくり」の取り組みを充実させる。
- ・不登校生徒の状況に応じ、学びの多様化推進担当教員を中心に、I C T機器の活用や関係諸機関等との連携を含めた支援体制を確立し、多様な教育の機会の保障を行う。
- ・体力向上や健やかな身体づくりとともに、自らの心身の健康と食に対する正しい知識を身につける

取り組みを推進する。